

ALPS処理水の海洋放出の安全性が 国際的な第三者機関によって確認されました。

ポイント

- IAEA(国際原子力機関)は原子力分野について専門的な知識を持った国連の関連機関(安全基準を策定・適用する権限を保有)であり、専門的な立場から第三者としてレビュー(検証)を実施
- レビューの結果として、ALPS処理水の海洋放出は「国際安全基準に合致」し、「人及び環境に対する放射線影響は無視できるほどである」といった結論が盛り込まれた包括報告書を本年7月4日に公表
- IAEAは、放出中・放出後についても長年にわたってALPS処理水の海洋放出の安全性確保にコミット

みんなで
知ろう。
考え方。
ALPS処理水のこと

包括報告書の概要

7月4日、ALPS処理水の海洋放出に関するレビューを総括する報告書がIAEAから公表されました。
包括報告書には主に以下の結論が記載されています。

WEBでも概要を
紹介しています



グロッシーIAEA事務局長コメント

- この包括報告書は、国際社会に対し、処理水放出についての科学的知識を明確にした
- 処理水の最後の1滴が安全に放出し終わるまで IAEA は福島にとどまる
ただとどまるだけではなく、実施状況をレビューし、点検・確認をしていく



出典：IAEA

人と環境への影響	■ ALPS処理水の放出は、人及び環境に対し、無視できるほどの放射線影響になる。 ・ 放射線環境影響評価を国際基準に適合して実施されている。 ・ ソースターム(放出前に評価するALPS処理水中の放射性物質の種類)は、十分に保守的でかつ現実的。 ・ 国際水域は、海洋放出の影響を受けないため、越境影響は無視できるほど。
設備とプロセスの健全性	■ ALPS処理水の放出を制御するシステムとプロセスは堅固である。 ■ 緊急遮断弁や放射線検出器などが重層的にシステムに組み込まれている。
規制による管理と認可	■ 原子力規制委員会は独立した規制機関として、安全に関する適切な法的・規制の枠組みを制定・実施している。
分析・モニタリング	■ 政府と東京電力のモニタリングに関する活動は、国際安全基準に適合している。 ■ 東京電力は適切で精密な分析を実施する能力と持続可能で堅固な分析体制を有する。 ■ IAEAと第三国分析機関のいずれも、有意に存在する追加の核種を検出しなかった。
IAEAの今後の関与	■ 今まで実施してきた放出前のレビューだけではなく、放出中・放出後についても長年にわたってALPS処理水の海洋放出の安全性確保にコミットする。 ・ 東京電力福島第一原子力発電所での活動を継続し、放出に関するデータをリアルタイムで国際社会に提供していく。 ・ 追加のレビューやモニタリングを継続し、国際社会に透明性と安心を提供する。

包括報告書のとりまとめまでに以下のレビューが実施されました

1 ALPS処理水の安全性

ALPS処理水の性状や放出計画などについて、IAEAの職員と国際専門家※からなるIAEAタスクフォースが「安全性」の面に特化して集中的に評価。

※アルゼンチン、オーストラリア、カナダ、中国、フランス、韓国、マーシャル諸島、ロシア、米国、英国、ベトナム出身の国際専門家

具体的には、

- ・放出されるALPS処理水の性状
- ・放出プロセスの安全性
- ・人と環境の保護に関する放射線影響
- などについて様々な技術的事項を確認。



IAEAによる現地視察の様子

レビューの様子

2 規制プロセスの妥当性

安全規制をおこなう主体である「原子力規制委員会」の対応を評価。

3 独立したサンプリング・分析

日本の公表データを検証する観点で、IAEA立ち合いの下で採取されたALPS処理水のサンプルについて、IAEAの研究所およびIAEAにより選定された第三国の分析機関(フランス、米国、スイス、韓国)がデータ分析し、各機関の分析結果の比較を実施。



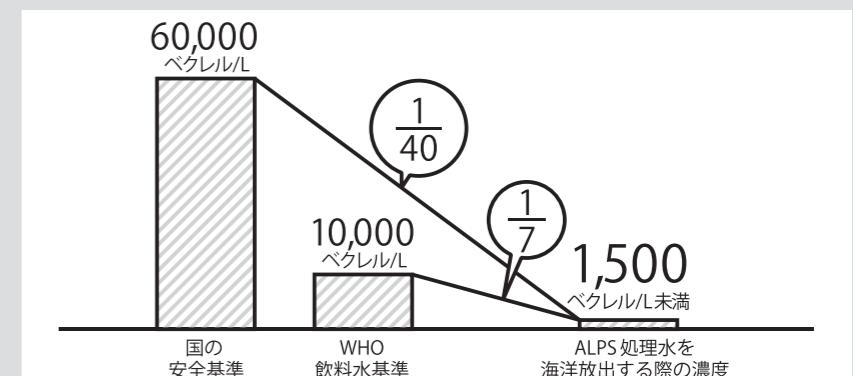
ALPS処理水サンプル採取の模様



試料採取・前処理の模様

ALPS処理水って何？

東京電力福島第一原子力発電所の建屋内にある放射性物質を含む水について、トリチウム以外の放射性物質を、安全基準を満たすまで浄化した水のことです。



トリチウムについても安全基準を十分に満たすよう、処分する前に海水で大幅に薄めます。薄めた後のトリチウムの濃度は、安全基準の40分の1未満になります。

